

長畝ふるさと通信

【2012年ちょっと遅れた9月号】

■ 24年産 新米お待たせしました！

24年産新米、お待たせいたしました。4月3日佐渡を襲った「爆弾低気圧」から半年、無事今年も新米がとれました。育苗ハウスや関連施設がことごとく破壊され呆然とした春、酷暑に耐えながら草刈りに精を出した夏、そして収穫の秋。昔から「暑い年は豊作」といわれてきましたが、今年はずいぶん豊作！百姓にとって一番の喜びです。昨年秋から土壌改良に取り組み、「1俵増産」を目指した成果があらわれました。うれし～。



■ コンバインって凄い！



今回はわが社のイセキ・コンバイン5条刈りを紹介します。

コンバインの無かった時代(ボクが小学校の頃)は一家総出で鎌で稲を手刈りし、束ねた稲を「はざ」に掛けて乾燥、その後脱穀機にかけて籾の脱穀をしていました。人手も時間も相当かかっていました。今となっては懐かしい思い出ですが…。

ところが現代はこれ1台で「あっ」という間に完了。①稲に向かってコンバインが進んでゆくと、最前部の下部に取り付けられたバリカン状の刈刃が稲を根元から刈り取っていきます。



②刈り取られた稲はコンバインの左側へと搬送され稲から籾が脱穀されていきます。コンバインの左ボディには逆V字のこぎ歯が付いた「こぎ胴」が内蔵され、これが回転することで稲わらから籾が外れていきます。



③籾はコンバインの右ボディにある「籾タンク」に送られ、籾を外された稲わらは後部にある裁断機でバラバラに刻まれてコンバインのお尻から田んぼへとばらまかれていきます。



④籾タンクが満タンになると「象の鼻」みたいな長いアーム(グレンプッカー)からダンプに籾を移し、ライスセンターへと搬送されていきます。

⑤コクピットはこんな感じです。



このレバーで前進・後進、スピードを調整します。
このレバーがハンドルと刈り取り部の高さ調整をし

ます。運転席はほとんど立ったまま操作をします。目線の高さは3メートルくらい。ちょっと戦車を運転している気分が味わえます。

コンバインの年間の実稼働は約1ヶ月ほど、気になるお値段は600~700万円と言ったところです。農業機械なしには現代の農業はあり得ませんが、よく考えるとお高いもんです。この他にもトラクターや田植機がそれぞれ5台ずつ・・・一般の個人経営では考えられないことです。



今年は36年ぶりに野生のトキのヒナが8羽誕生し、無事巣立ちを終えました。また、9月末には第7回の野生放鳥が行われ、これまでに放鳥されたトキは108羽にもなりました。当地においても日常の中でトキを目撃する機会も多くなり、餌場となる田んぼの重要性を再認識しているところです。

24年産米の年間玄米予約会員数は60件を超えました。これからも少しでも多くのお客様に「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」を召し上がっていただけるよう、安全で美味しいお米づくりに取り組んでまいります。皆様の一層のお力添えをお願いいたします。

